

日商簿記検定 2 級講座

工業簿記

【第9回】

部門別個別原価計算Ⅱ

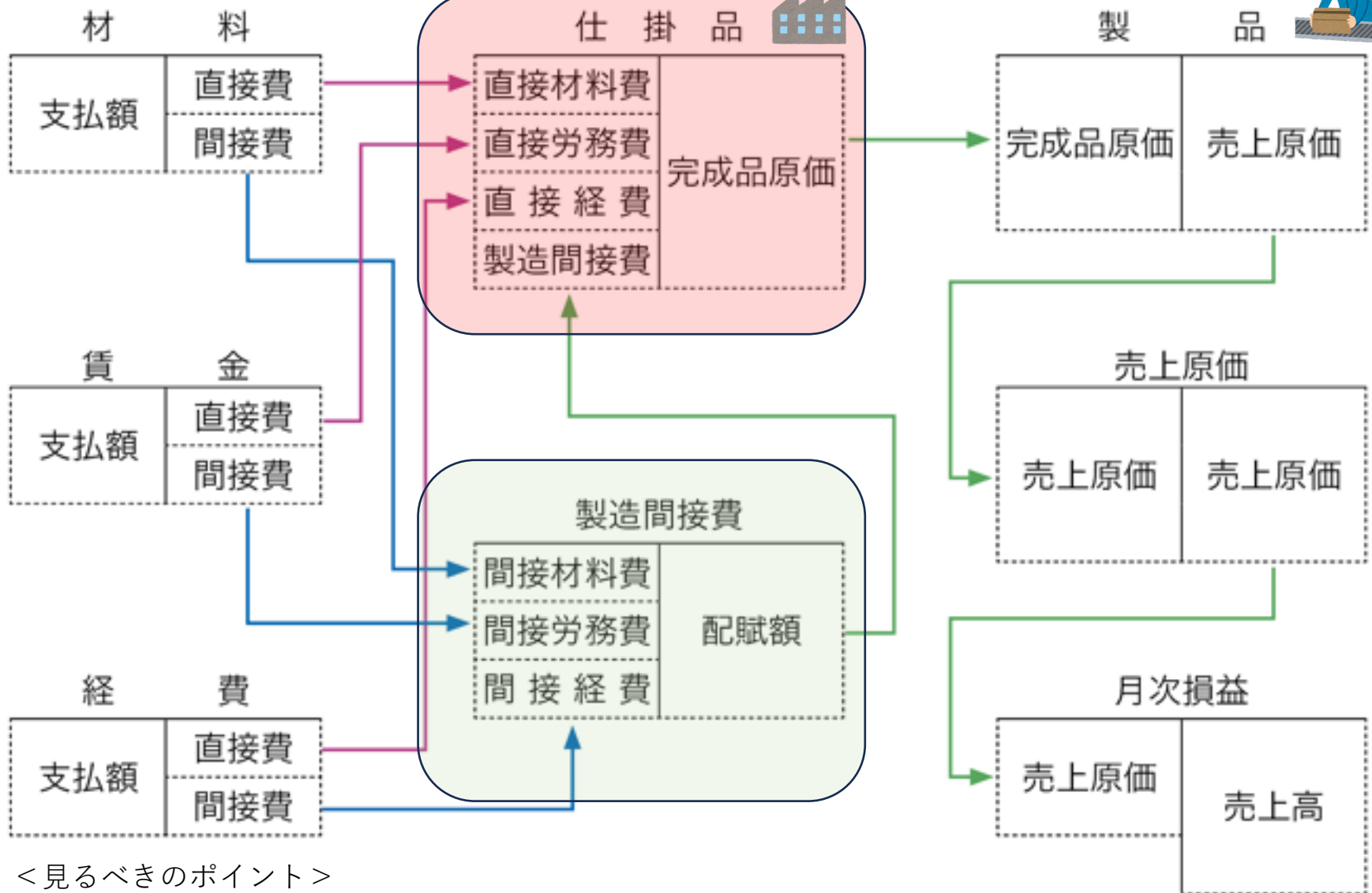
総合原価計算Ⅰ

第10回講義の内容

テーマ11	部門別個別原価計算Ⅱ	108ページ
テーマ12	総合原価計算Ⅰ	128ページ



「勘定連絡図」(P63)を確認してください。

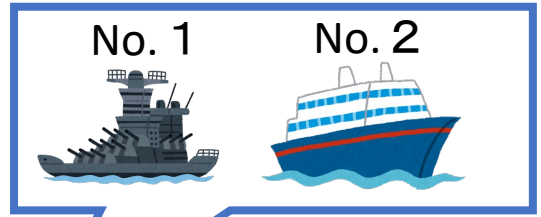


<見るべきのポイント>

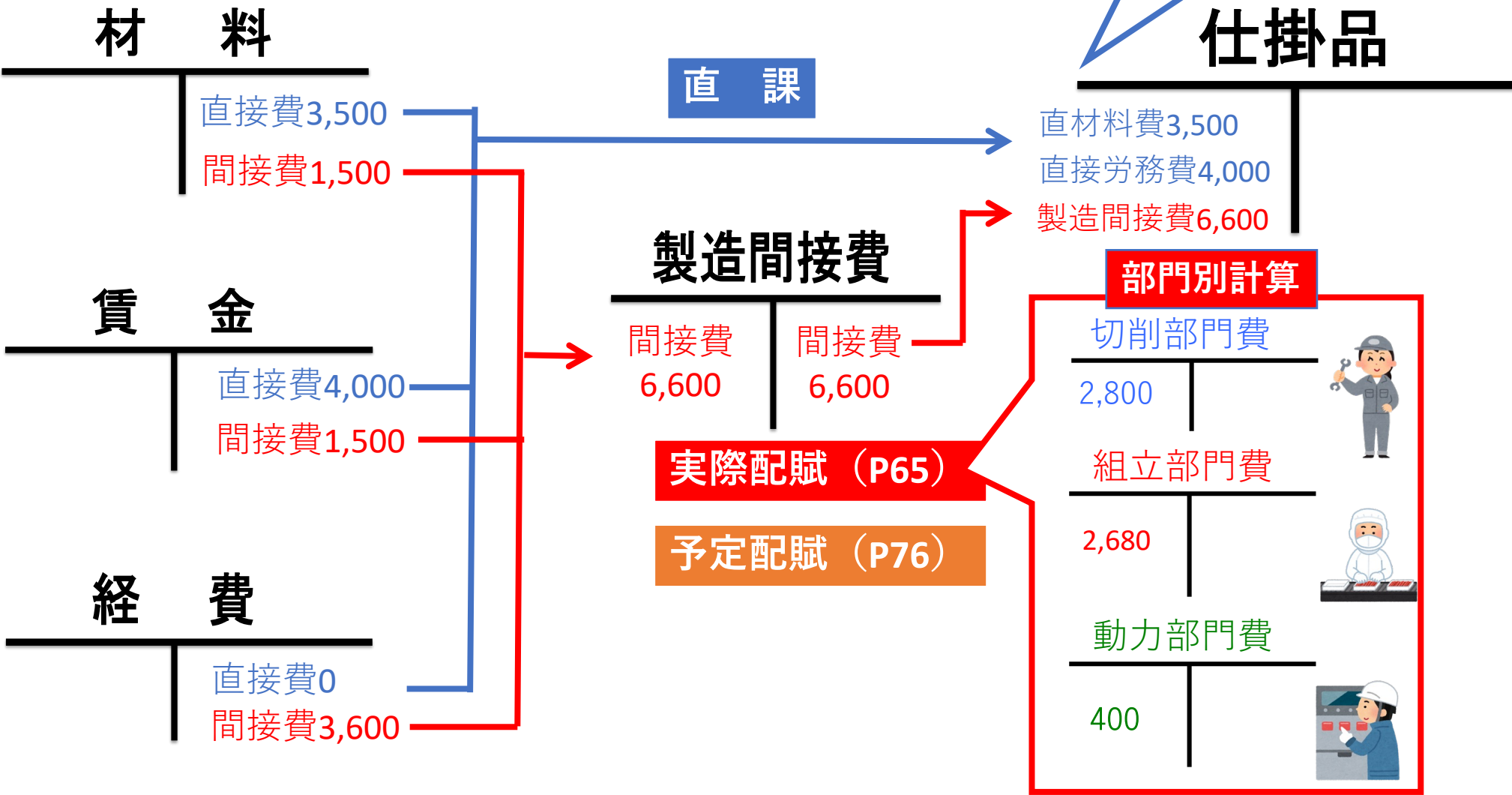
- ①直接費と間接費で行き先が異なる
- ②間接費は製造間接費勘定を經由して配賦される。

1. 製造部門費の実際配賦 (P 108)

【前回の復習】 製造間接費の配賦額の計算方法 2 つ



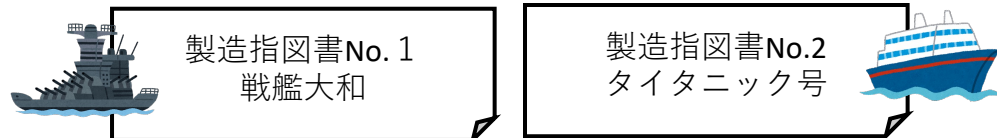
仕掛品



「設例11-1」 (P109) までの総復習～第一次集計 (P95～97)

<設例10-1> 部門別個別原価計算 (P96)

当社は造船会社であり、当社は2隻の船の建造を受注し、下記の製造指図書を発行した。



- (1) 当工場では、製造部門と補助部門に分けた「**部門別**」個別原価計算を採用している。
- (2) **工場全体で発生した製造間接費は6,600円**であり（上記(2)参照）各部門に配賦する。
- (5) 決算業務にあたり、①部門配賦表を作成するとともに、②各部門費勘定へと振替える処理をする。



原価計算担当者が作成した部門費に関する資料は下記のとおり

	切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門	製造間接費合計
部門個別費	1,500円	1,580円	160円	260円	50円	6,600円
部門共通費	①福利施設負担額1,050円 ②建物減価償却費2,000円					
上記の部門共通費の配賦基準(1) ：従業員数	30人	20人	6人	4人	10人	70人
上記の部門共通費の配賦基準(2) ・占有面積	170㎡	160㎡	30㎡	20㎡	20㎡	400㎡



①部門配賦表の作成【原価の計算】

【第一次集】

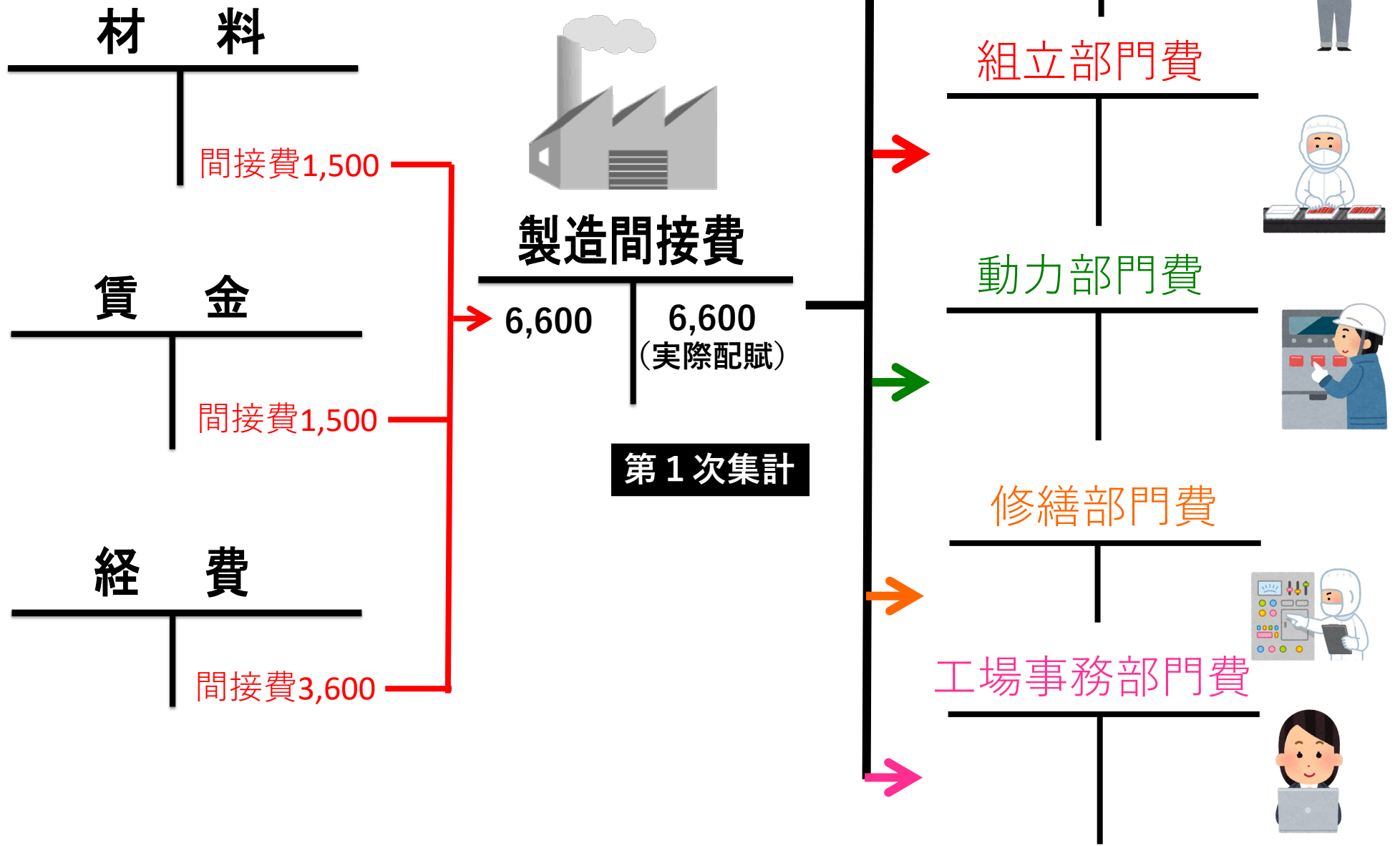
部門費配賦表

(単位：円)

費目	合計	製造部門		補助部門		
		切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
部門個別費 (直課)						
部門共通費 (配賦)						
福利施設負担額						
建物減価償却費						
部門費費						

部門共通費は、福利施設負担額は「従業員数」で、建物減価償却費は「占有面積」を基準に配賦してください。

② 勘定記入～勘定連絡図



6 第2次集計 (P 98)

第2次集計では、**補助部門費を製造門費に配賦**する計算を行います。

切削部門費

2,800



何かを基準に配賦

動力部門

400



修繕部門

420



工場事務部門

300



組立造部門費

2,680



仕掛品勘勘定
に配賦して
いない!

<設例10-2> 直接配賦法（第2次集計） P100

- (1) 当工場では、製造部門と補助部門に分けた「部門別」個別原価計算を採用している。
- (2) 第1次集計が終わったので、**第2次集計**を行う（補助部門費の配賦計算）。
- (3) 補助部門費の配賦計算では、「**補助部門間の用益授受を一切考慮しない（直接配賦法）方法**」によること。
- (4) ①部門配賦表（第2次集計）を作成するとともに、②各部門費勘定へと振替える処理をする。



原価計算担当者が作成した部門費に関する資料は下記のとおり

	製造間接費 合計	切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
部門費	6,600	2,800円	2,680円	400円	420円	300円
補助部門配賦基準 ：動力消費量	800kwh	320kwh	320kwh	—	100kwh	60kwh
：修繕時間	60時間	24時間	32時間	4時間	—	—
：従業員数	70人	30人	20人	6人	4人	10人

①部門配賦表の作成【原価の計算】

部門費配賦表

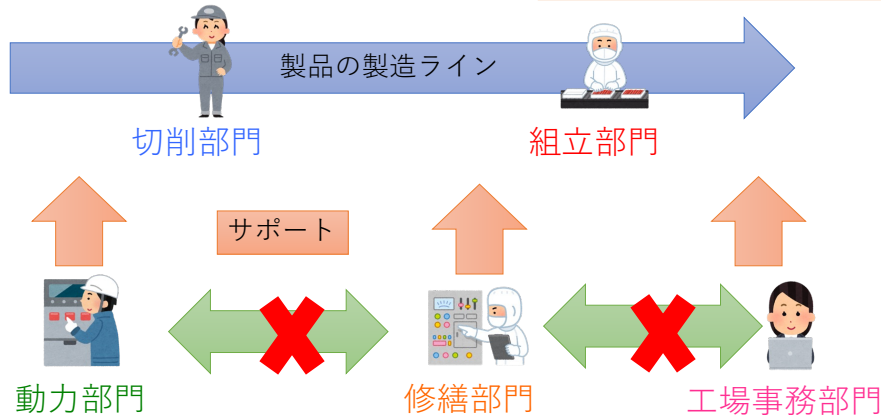
(単位：円)

費目	金額	製造部門		補助部門		
		切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
部門費	6,600	2,800	2,680	400	420	300
動力部門						
修繕部門						
工場事務部門						
製造部門費						

製品の製造に直接携わっているのは「製造部門」です。
(切削と組立部門)



「補助部門」は製造部門をサポートしているので、その製造間接費は、製造部門の方に配賦をします。



6 第2次集計 (P 98)

第2次集計では、補助部門費を製造門費に配賦する計算を行います。

切削部門費

2,800

動力
修繕
工場



第2次集計
(直接配賦法)

組立造部門費

2,680

動力
修繕
工場



動力部門

400

400



修繕部門

420

420



工場事務部門

300

300



テーマ 1 1 : 部門別個別原価計算 (Ⅱ)

< 設例11-1 > 製造部門費の仕掛品勘定への配賦 (P108・109)

下記の資料に基づいて、①原価計算表を作成するとともに、②勘定記入を下さい。

- (1) 当工場では、製造部門と補助部門に分けた「**部門別**」個別原価計算を採用している。
- (2) **第2次集計（補助部門費の配賦計算）まで終わったため**、製造部門費への配賦を行う。
- (3) 製造部門費勘定に集計された製造部門費は、**下記の配賦基準に基づき「実際」配賦**をする。
- (4) 配賦基準は下記のとおり。製造指図書No. 1 と製造指図書No. 2 の製品原価を計算する。

	製造指図書No. 1	製造指図書No. 2
切削部門（機械運転時間）	4 時間	3 時間
組立部門（直接作業時間）	2 時間	2 時間



部門費配賦表

(単位：円)

費 目	金 額	製造部門		補助部門		
		切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
部 門 費	6,600	2,800	2,680	400	420	300
動 力 部 門		200	200			
修 繕 部 門		180	240			
工 場 事 務 部 門		180	120			
製 造 部 門 費	6,600	3,360	3,240			



原価計算担当者が作成した
補助部門費配賦表（第2次集計まで）

設例10-1と設例10-2
までの計算

①原価計算表の作成【原価の計算】

(1) 原価計算表（原価の計算） → **部門別**個別原価計算



(単位：円)

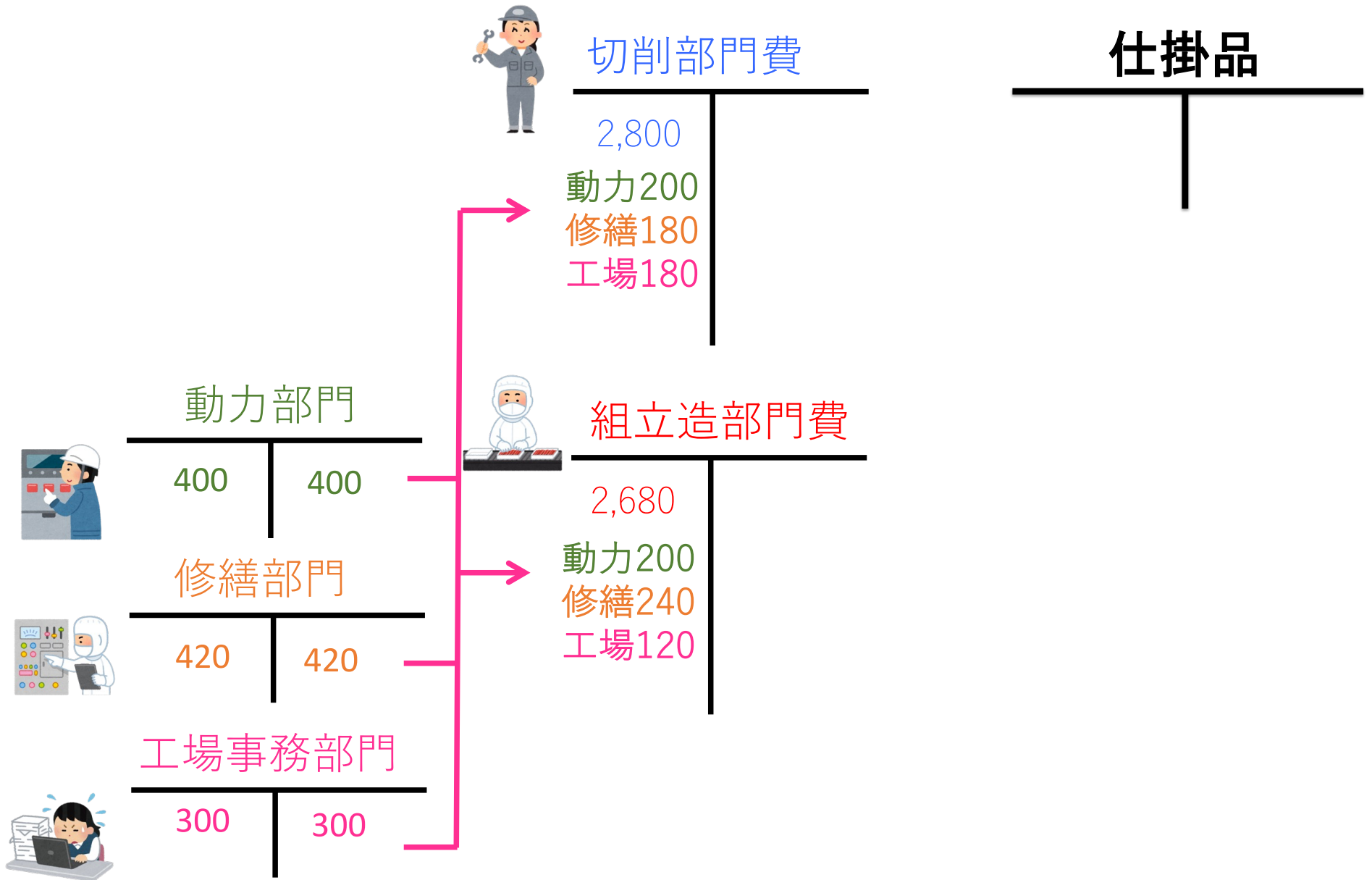
	No. 1	No. 2	合計
直接材料費			
直接労務費			
切削部門費			
組立部門費			
合計			

②勘定記入（仕訳帳）

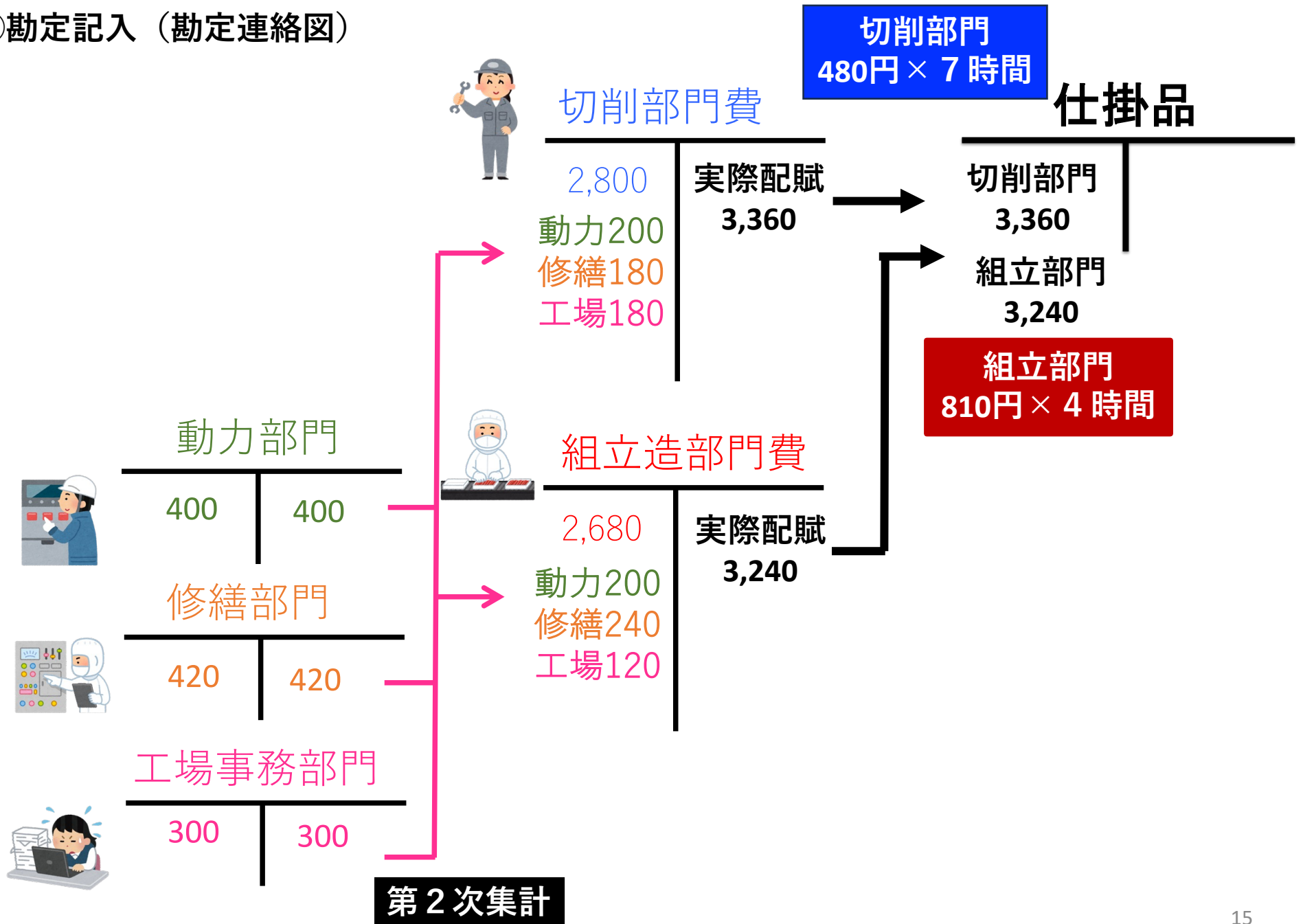
借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品		切削部門費	
		組立部門費	



②勘定記入（勘定連絡図）



②勘定記入（勘定連絡図）



< 設例11-2 > 製造部門費の仕掛品勘定への「**予定**」配賦 (P114～P116)

下記の資料に基づいて、①原価計算表を作成するとともに、②勘定記入を下さい。

- (1) 当工場では、製造部門と補助部門に分けた「**部門別**」個別原価計算を採用している。
- (2) 工場長は、当年度期首において部門別に下記のような予算数値を立てた。

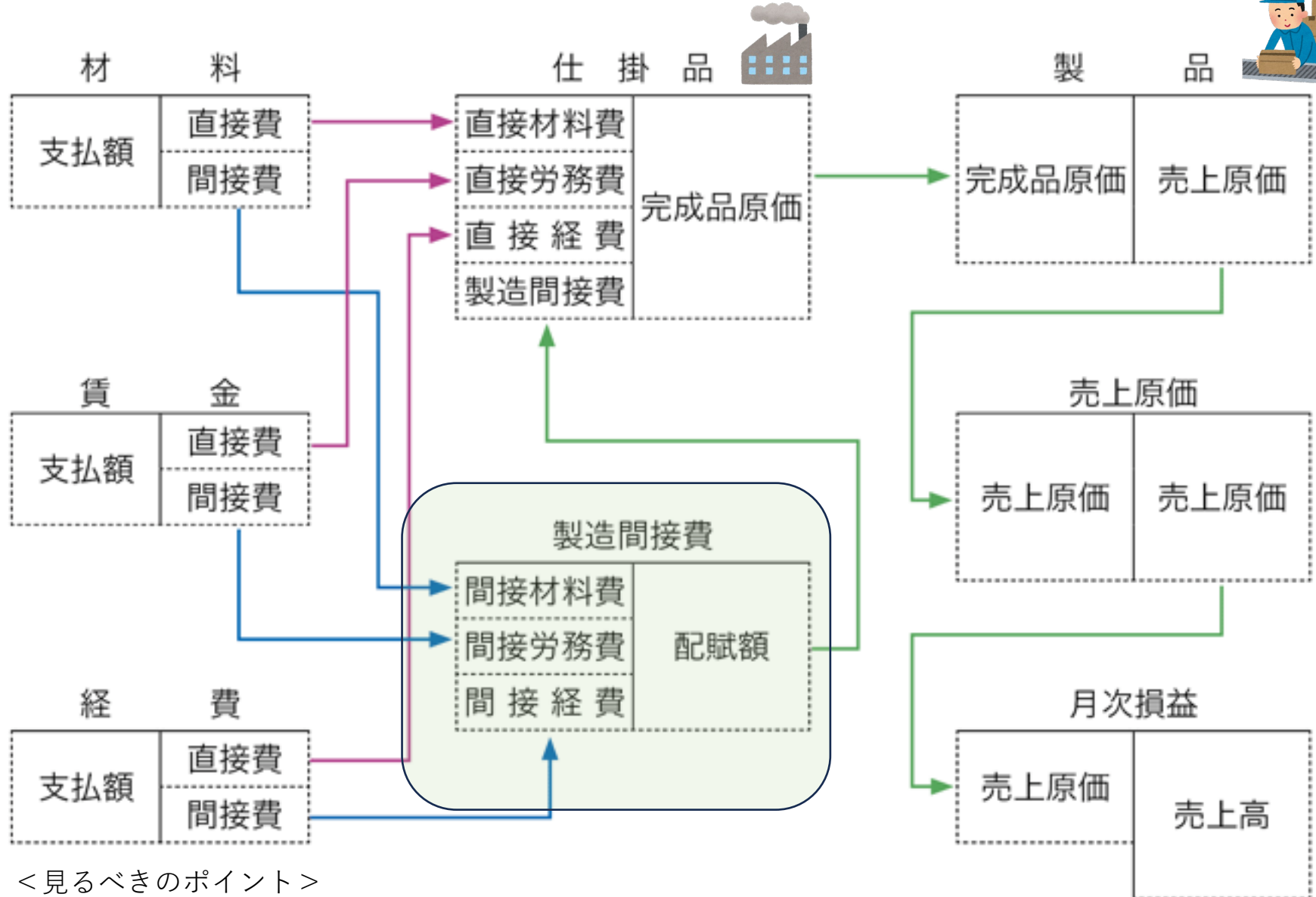
年間ベース	切削部門	組立部門	合計
製造部門費の予算額	37,800円	34,200円	72,000円
予定直接作業時間	36時間	36時間	72時間
予定機械運転時間	84時間	60時間	144時間
部門ごとの配賦基準	機械運転時間	直接作業時間	

- (3) 製造部門費勘定に集計された製造部門費は、上記の配賦基準に基づき「**予定**」配賦をする。
- (4) 当月の製造間接費実際発生額及び実際操業度は下記のとおり。

	製造間接費	製造指図書No. 1	製造指図書No. 2
切削部門 (機械運転時間)	3,360円	4 時間	3 時間
組立部門 (直接作業時間)	3,240円	2 時間	2 時間

- (5) 製造部門費の実際発生額と予定配賦額との差額は製造部門費配賦差異勘定に振替える

「勘定連絡図」(P63)を確認してください。





<見るべきのポイント>

- ①直接費と間接費で行き先が異なる
- ②間接費は製造間接費勘定を經由して配賦される。

①原価計算表の作成【原価の計算】

(1) 原価計算表（原価の計算） → **部門別**個別原価計算

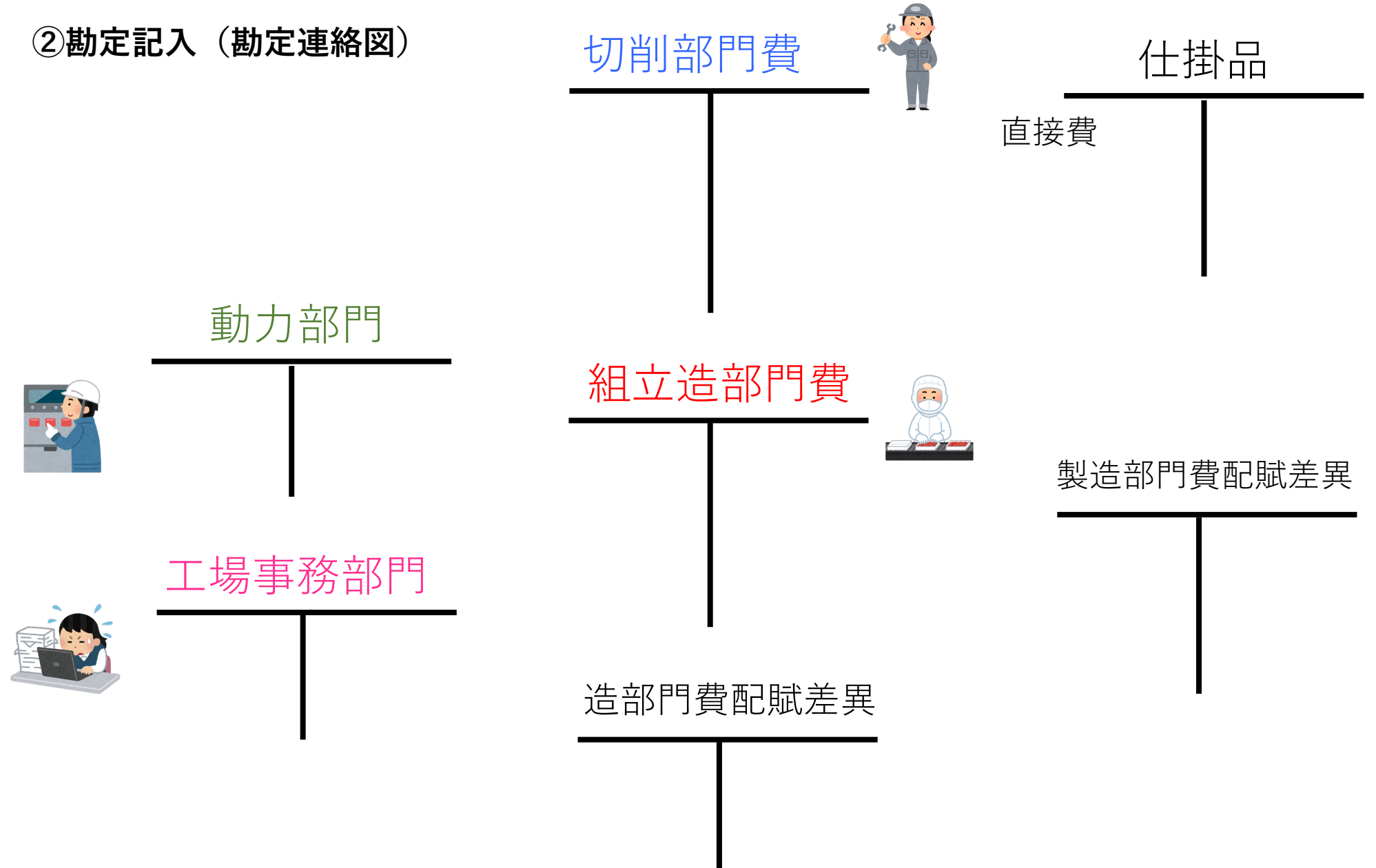


 (単位：円)

	No. 1	No. 2	合 計
直 接 材 料 費	2,000	1,500	3,500
直 接 労 務 費	2,000	2,000	4,000
切 削 部 門 費			
組 立 部 門 費			
合 計			

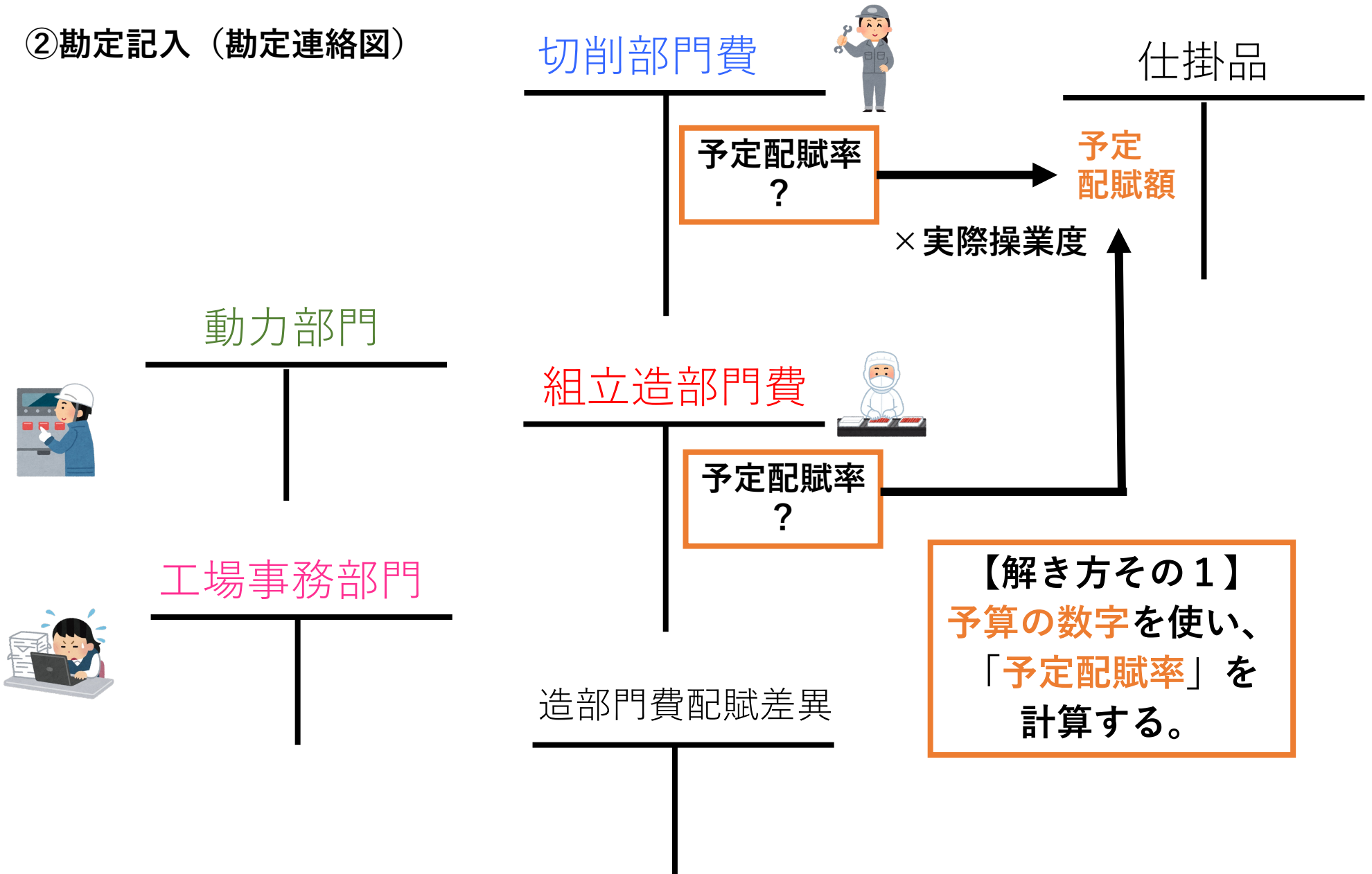
②勘定記入（仕訳帳）～仕掛品勘定への配賦の処理

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
仕 掛 品		切 削 部 門 費	
		組 立 部 門 費	

②勘定記入（勘定連絡図）



②勘定記入（勘定連絡図）



<設例11-2> 製造部門費の仕掛品勘定への「予定」配賦 (P114~P116)

下記の資料に基づいて、①原価計算表を作成するとともに、②勘定記入を下さい。

- (1) 当工場では、製造部門と補助部門に分けた「部門別」個別原価計算を採用している。
- (2) 工場長は、**当年度期首**において部門別に下記のような**予算数値**を立てた。

年間ベース	切削部門	組立部門	合計
製造部門費の予算額	37,800円	34,200円	72,000円
予定直接作業時間	36時間	36時間	72時間
予定機械運転時間	84時間	60時間	144時間
部門ごとの配賦基準	機械運転時間	直接作業時間	

- (3) 製造部門費勘定に集計された製造部門費は、上記の配賦基準に基づき「予定」配賦をする。



計画
では

$$37,800円 \div 84時間 = 予定配賦率450円/時間$$

$$34,200円 \div 36時間 = 予定配賦率950円/時間$$

< 設例11-2 > 製造部門費の仕掛品勘定への「**予定**」配賦 (P114~P116)

下記の資料に基づいて、①原価計算表を作成するとともに、②勘定記入を下さい。

- (1) 当工場では、製造部門と補助部門に分けた「**部門別**」個別原価計算を採用している。
- (2) 工場長は、**当年度期首**において部門別に下記のような**予算数値**を立てた。

年間ベース	切削部門	組立部門	合計
製造部門費の予算額	37,800円	34,200円	72,000円
予定直接作業時間	36時間	36時間	72時間
予定機械運転時間	84時間	60時間	144時間
部門ごとの配賦基準	機械運転時間	直接作業時間	予定

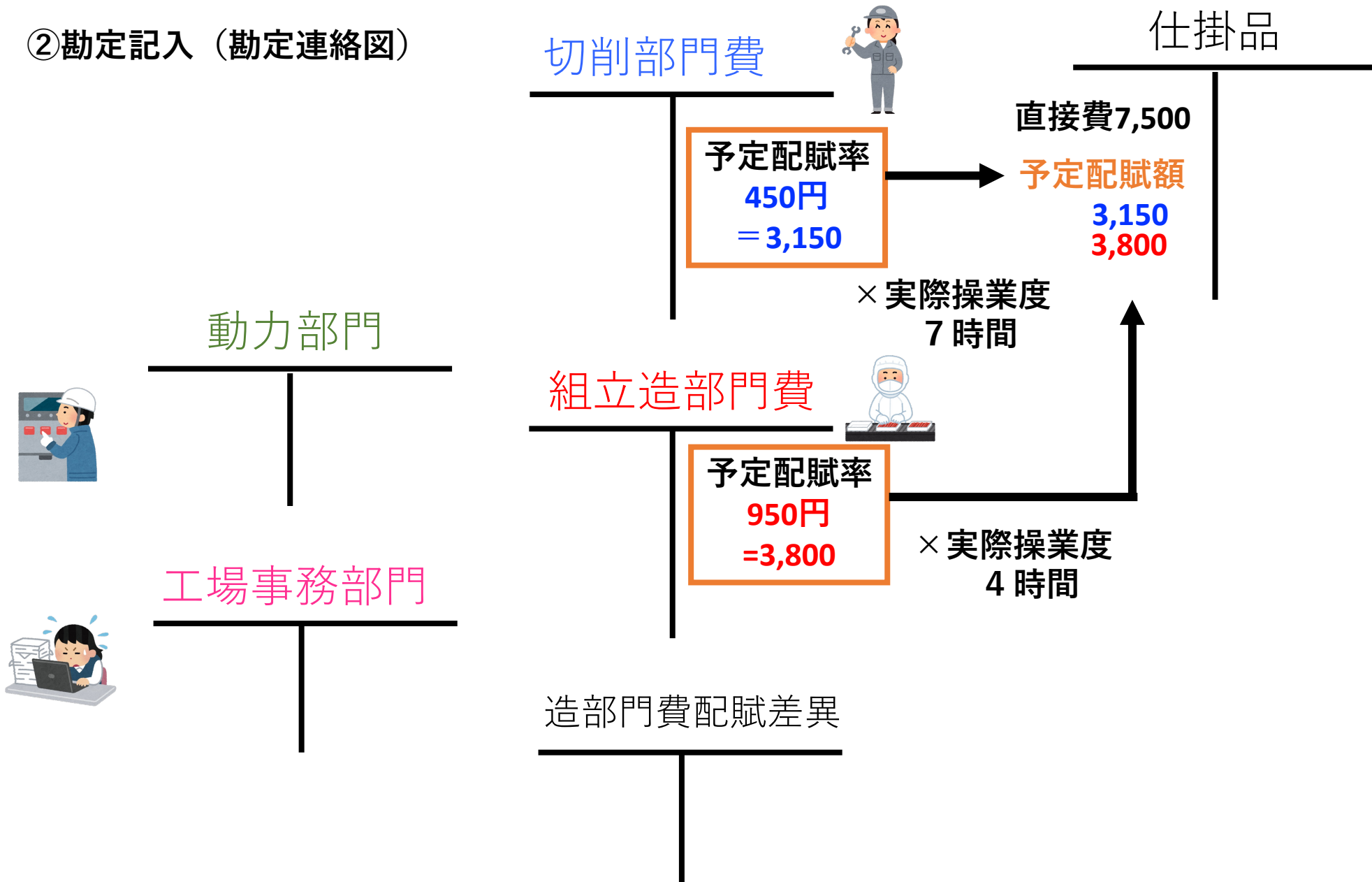
- (3) 製造部門費勘定に集計された製造部門費は、上記の配賦基準に基づき「**予定**」配賦をする。

- (4) **当月の実際**操業度は下記のとおり。

	製造指図書No. 1	製造指図書No. 2
切削部門 (機械運転時間)	4 時間	3 時間
組立部門 (直接作業時間)	2 時間	2 時間



- (5) 製造部門費の実際発生額と予定配賦額との差額は製造部門費配賦差異勘定に振替える

②勘定記入（勘定連絡図）



①原価計算表の作成【原価の計算】

(1) 原価計算表（原価の計算） → **部門別**個別原価計算



 (単位：円)

	No. 1	No. 2	合 計
直接材料費	2,000	1,500	3,500
直接労務費	× 4 時間	× 3 時間	4,000
切削部門費	1,800	1,350	3,150
組立部門費	1,900	1,900	3,800
合 計	× 2 時間	× 2 時間	14,450

切削部門
480円

組立部門
810円

②勘定記入（仕訳帳）～仕掛品勘定への配賦の処理

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕 掛 品	6,950	切 削 部 門 費	3,150
		組 立 部 門 費	3,800

< 設例11-2 > 製造部門費の仕掛品勘定への「**予定**」配賦 (P114~P116)

下記の資料に基づいて、①原価計算表を作成するとともに、②勘定記入を下さい。

- (1) 当工場では、製造部門と補助部門に分けた「**部門別**」個別原価計算を採用している。
 (2) 工場長は、当年度期首において部門別に下記のような予算数値を立てた。

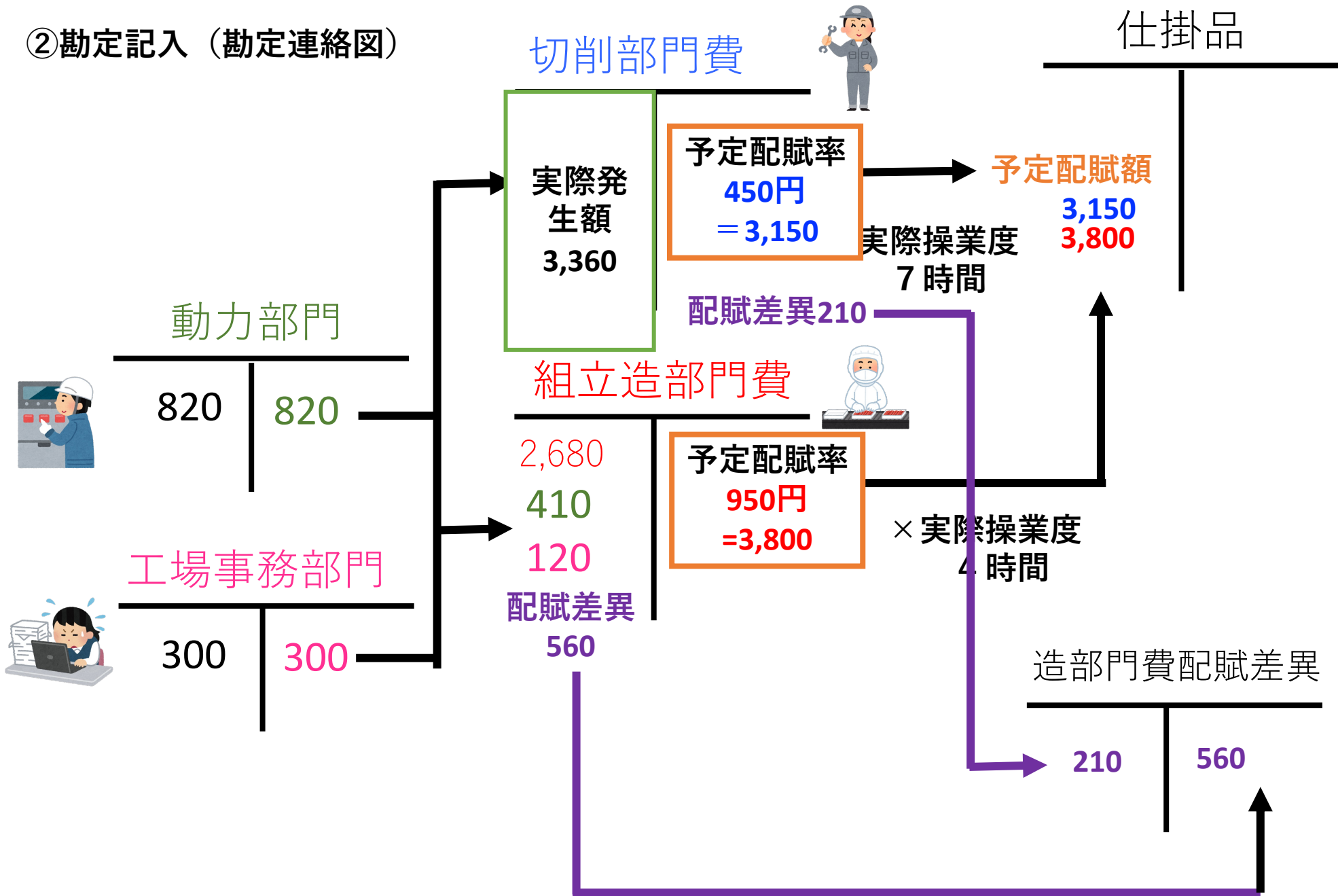
年間ベース	切削部門	組立部門	合計
製造部門費の予算額	37,800円	34,200円	72,000円
予定直接作業時間	36時間	36時間	72時間
予定機械運転時間	84時間	60時間	144時間
部門ごとの配賦基準	機械運転時間	直接作業時間	

- (3) 製造部門費勘定に集計された製造部門費は、上記の配賦基準に基づき「**予定**」配賦をする。
 (4) **当月の製造間接費実際発生額**及び実際操業度は下記のとおり。

	製造間接費	製造指図書No. 1	製造指図書No. 2
切削部門 (機械運転時間)	3,360円	4 時間	3 時間
組立部門 (直接作業時間)	3,240円	2 時間	2 時間

- (5) 製造部門費の実際発生額と予定配賦額との差額は製造部門費配賦差異勘定に振替える

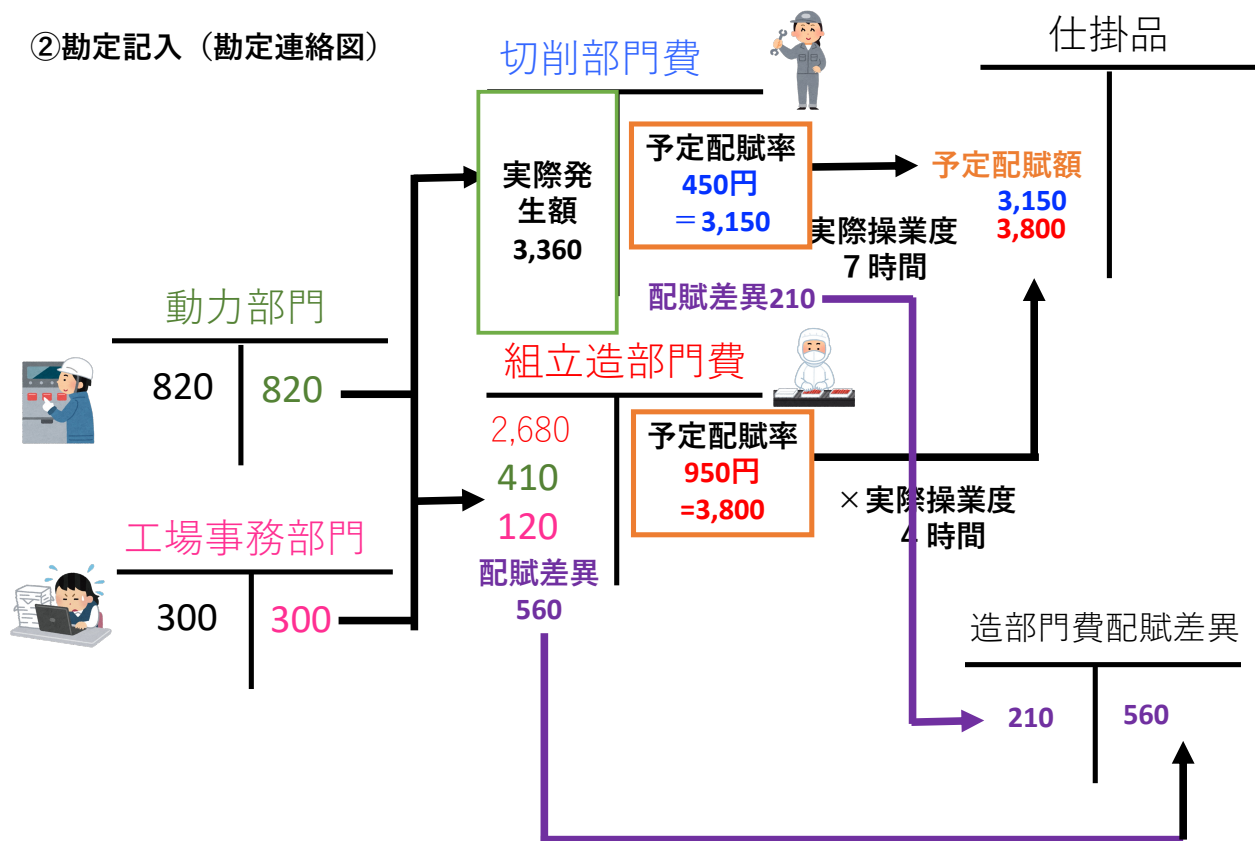
②勘定記入（勘定連絡図）



②勘定記入（仕訳帳）～実際発生額と予定配賦額との処理

借方科目	金額	貸方科目	金額
製造部門費配賦差異		切削部門費	
組立部門費		製造部門費配賦差異	

②勘定記入（勘定連絡図）

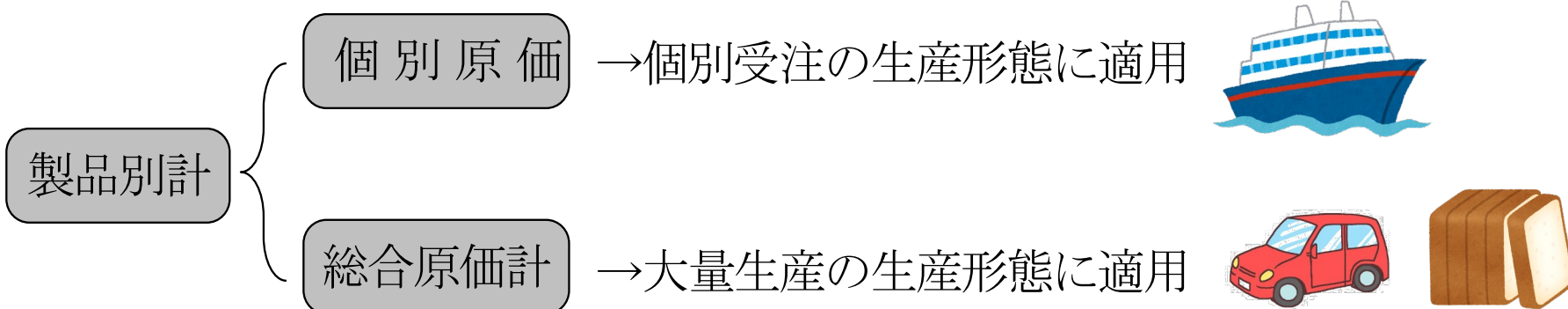


テーマ 1 2 総合原価計算 I



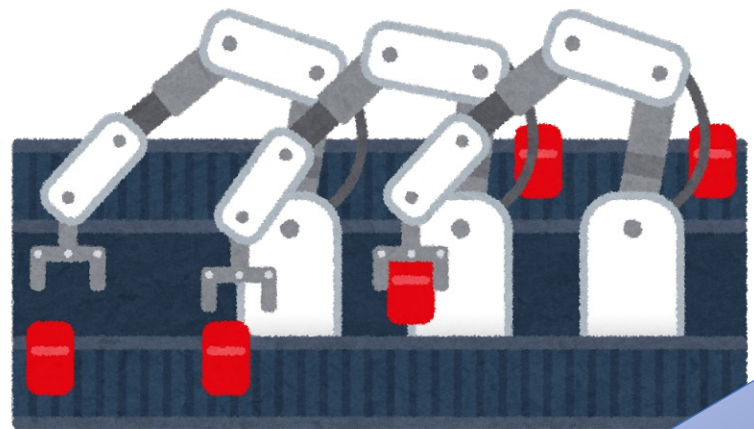
4 個別原価と総合原価計算 (P128)

原価計算の種類



特徴 \ 形態	個別原価計算	総合原価計算
生産形態	個別受注生産	市場見込生産
計算対象	特定生産品 —job (個別製品)—	一定期間の生産品 —Process 全体—
計算の特徴	直接費の直課と、間接費の配賦	完成品と仕掛品への配分計算
適用業種	造船業、建設業、機械製造業	食品産業、加工組立型産業等

総合原価計算の考え方を理解しよう (P128)



原価いくら？

製造するための原価

完成した車

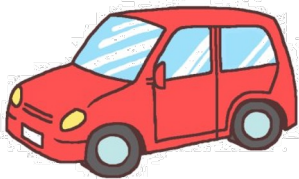
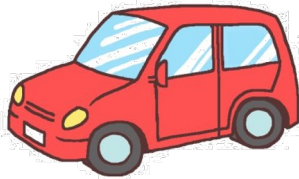


あとは個数で割れば
1個あたりの原価を
計算することができる

同じ製品を大量
に見込み生産

原価いくら？

未完成の車



総合原価計算では原価を完成品
と未完成品へ配分する計算となる

3 「単純」 総合原価計算の考え方を理解しよう (P130)



【計算例】

食品業を営む当社は、食パンの大量生産を行なっている。今月において1,000枚のパンを生産したが、その製造にかかった費用は以下のとおりであった。

【製造に関して発生した費用】

1. 材料代 (小麦粉)

(1)材料代の単価：100 円/kg

(2)総消費数量 10 kg

(3)材料費：100 円/kg × 100 kg = 10,000 円

2. 工員の賃金

(1)賃率：1,000 円/時間

(2)総作業時間 40 時間

(3)労務費：1,000 円/時間 × 40 時間 = 40,000 円

3. 機械設備の減価償却費

経費：減価償却費 50,000 円

パン1,000枚を作るのに かかった原価

材料費 1 万円
労務費 4 万円
経 費 5 万円
製造原価 10 万円



食 パ ン

パン 1 枚あたりの原価はどの
ように計算すればいいのか？



例えば、上記の計算例で、完成品になったものが 800 枚、仕掛かり中（製造途中のものでこれを**仕掛品**という）のものが 200 枚あり、このときに工場内で発生した製造原価が 10 万円だとしましょう。この場合、完成品の原価と仕掛品の原価を計算するために、当該 10 万円の配分計算が必要となります。



800 枚完成



200 枚未完成

パン1,000枚を作るのに
かかった原価

材料費 1万円

労務費 4万円

経費 5万円

製造原価 10万円



8万円

完成品の
食パン 800枚



仕掛品（製造途中）
の食パン 200枚

2万円

4 月末仕掛品原価の計算 (P131)

1. 材料費の計算

<設例12-1> 単純総合原価計算の月末仕掛品原価の計算 (P131)

当社カラーボールを大量生産している。下記資料により、月末仕掛品原価（材料費のみ）と完成品原価（材料費のみ）を求めなさい。

(資料)

1. 生産データ

月初仕掛品	0個
当月投入	4個
合計	4個
月末仕掛品	2個
完成品	2個

2. 原価データ

	直接材料費 (真っ新なボール)
月初仕掛品	0円
当月投入	600円

なお、材料はすべて工程の始点で投入している。

2. 加工費の計算

<設例12-2> 単純総合原価計算の月末仕掛品原価の計算 (P132)

当社カラーボールを大量生産している。下記資料により、月末仕掛品原価（**加工費のみ**）と完成品原価（**加工費のみ**）を求めなさい。

（資料）

1. 生産データ

月初仕掛品	0個
当月投入	4個
合計	4個
月末仕掛品	2個
完成品	2個

2. 原価データ

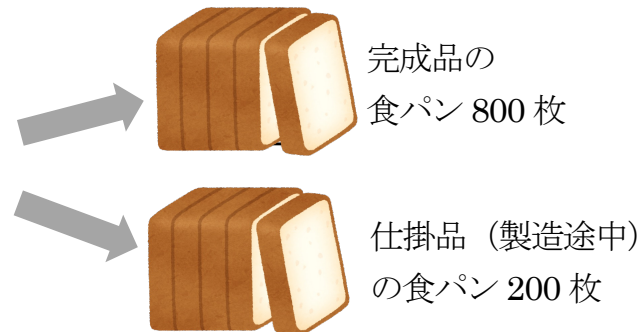
	加工費 (ボールの色塗り)
月初仕掛品	0円
当月投入	600円

(50%)

() 内の数値は「**加工進捗度**」である。

「**単純**」総合原価計算では直課と配賦は関係ないので、**労務費と経費は「加工費」としてひとまとめにします。**
(P129)

材料費 1万円
労務費 4万円
経費 5万円
製造原価 10万円



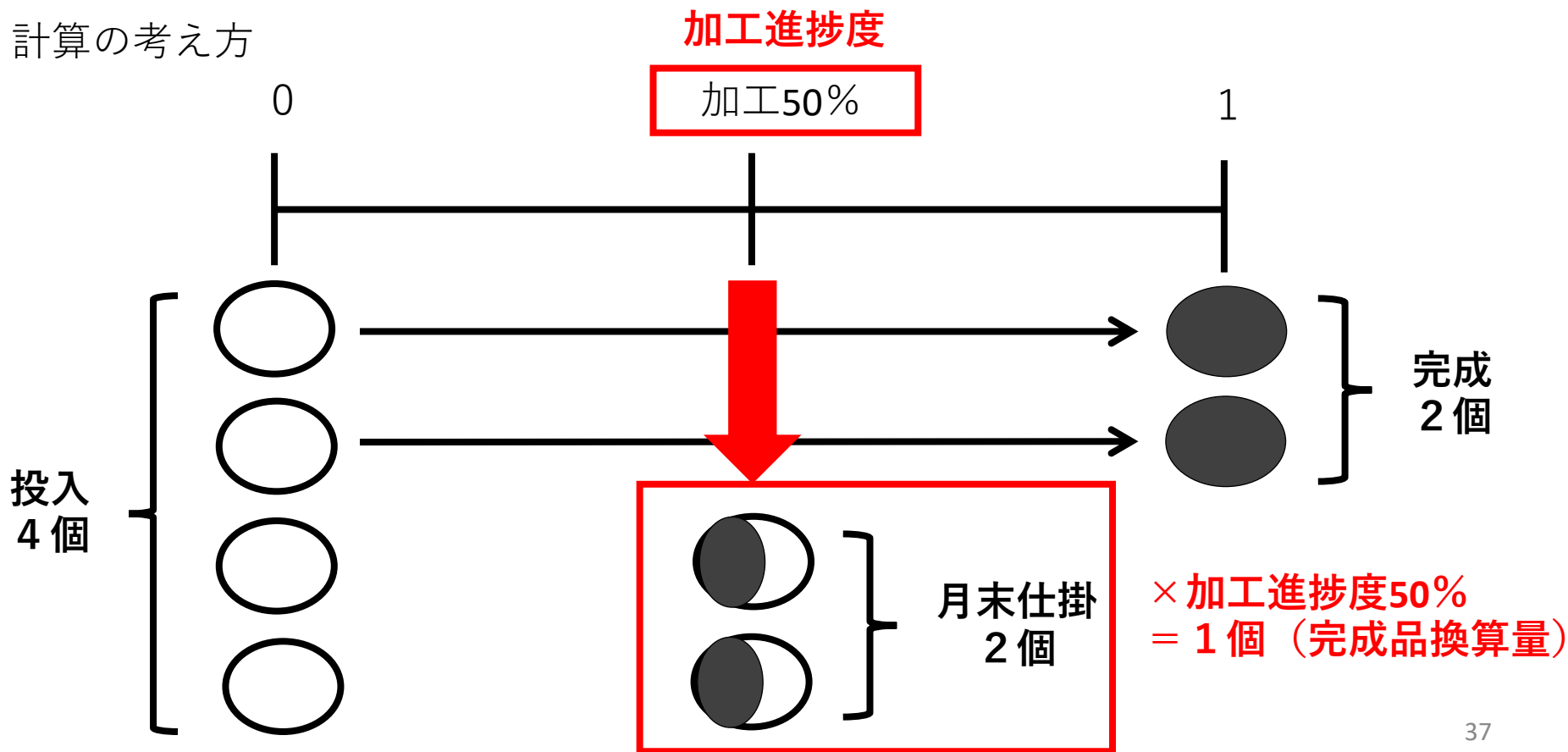
1. 計算方法 (BOX図を使って考える)

仕掛品 - 加工費

当月	個	完成	個円
	円	月末	個円

材料費と同じように「数量」の比で按分計算したらどうなるでしょうか？

2. 計算の考え方



<設例12-3> 単純総合原価計算の月末仕掛品原価の計算 (P134)

当社カラーボールを大量生産している。下記資料により、月末仕掛品原価と完成品原価を求めなさい。

(資料)

1. 生産データ

月初仕掛品	0個
当月投入	4個
合計	4個
月末仕掛品	2個
完成品	2個

(50%)

2. 原価データ

	直接材料費 (白ボール)	加工費 (ボールの色塗り)
月初仕掛品	0円	0円
当月投入	600円	600円

材料はすべて工程の始点で投入している。
()内の数値は「加工進捗度」である。

1. 計算方法 (BOX図を使って考える)

仕掛品 - 直接材料費

当月	個	完成	個
			円
	円	月末	個
			円

仕掛品 - 加工費

当月	個	完成	個
			円
	円	月末	個
			円

(1) 原価計算表（原価の計算）→総合原価計算

(単位：円)

	直接材料費	加工費	合計
月初仕掛品			
当月製造費用			
計			
月末仕掛品			
完成品原価			
完成品単位原価			

(2)勘定記入～仕掛品勘定

仕 掛 品	
前月繰越	[製品] ()
[材料] ()	[次月繰越] ()
[加工費] ()	
<u>()</u>	<u>()</u>
<u><u>()</u></u>	<u><u>()</u></u>